

コロナ禍での現場環境改善と地域とのコミュニケーションについて

園家副離岸堤 (No110) その2 工事

現場代理人 大川浩幸

○ 監理技術者 笠原友矢

女性技術者 中川栄子

1.はじめに

本工事は、海岸保全事業として富山県下新川郡入善町下飯野地先において副離岸堤全体延長 82.0mのうち 68.7mを設置する工事である。

施工開始時期である4月当初、前代未聞の新型コロナウイルス拡大の中通常の安全対策に加えて未知のウイルスへの対応も行う必要があった。本文では、コロナ禍での現場環境改善と地域とのコミュニケーションについて取組みを報告する。

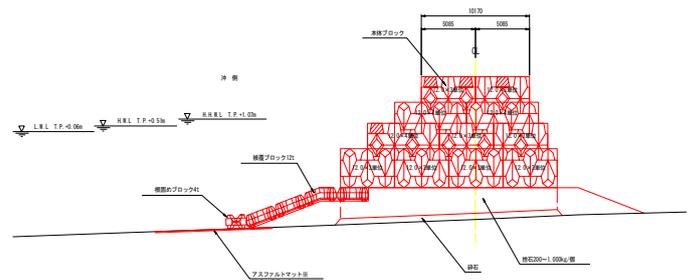
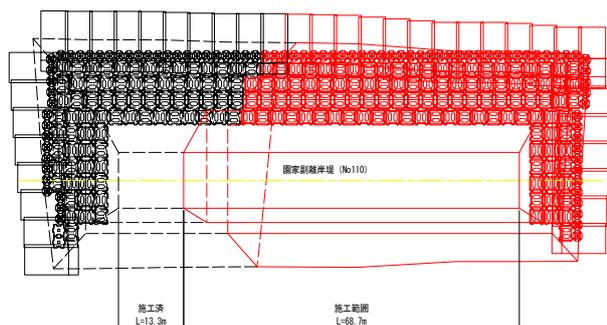
2.工事概要

(1)工 期 令和2年4月1日～令和2年10月30日(213日間)

(2)工事箇所 富山県下新川郡入善町下飯野 地先

(3)工事内容

工種・種別・細別	規 格	数 量
【海域堤基礎工】 捨石工 捨石(海上) 捨石(海上) 捨石均し 床均し 洗掘防止工 海岸コンクリート運搬・据付 海岸コンクリート撤去・仮置・据付 アスファルトマット	岩石 200～1,000 kg/個 碎石 50 mm以下 荒均し ±30 cm 異形ブロック 4～12t 異形ブロック 4～12t 11.0m×5.5m×9 cm	岩石 3,317 m ³ 碎石 605 m ³ 2,450 m ² 一式 120 個 40 個 1,070 m ²
【海域堤本体工】 海岸コンクリートブロック工 海岸コンクリート運搬・据付	本体ブロック(36・48t)	231 個
【鋼製魚礁工】 鋼製魚礁工 鋼製魚礁組立・運搬・据付	3.4m×3.4m×H2.4m 12t/基	2 基
【仮設工】 芦崎積出基地整備工 異形ブロック撤去・据付(水中・陸上)	異形ブロック 4.5～12.5t	221 個



3.現場での取組み

(1)コロナ禍での現場環境改善の取組み

①朝礼・安全教育時のソーシャルディスタンスの実践

これまでは朝礼・安全教育時には人と人が隣り合わせで実施していたが、今回は3密防止策としてソーシャルディスタンスを取り入れ、互いに一定の距離を保った。本社会議室を利用して広い空間で安全教育を行うなど、感染リスクの低減を図り感染予防に対する安全性の向上に努めた。



②事務所内における感染予防対策及びカード型空気清浄機の携帯

基本的な予防策として手洗い・うがい・マスク着用を励行し、事務所内には非接触体温計や感染予防クリーナーの導入、注意喚起ポスターや来客者の把握の為の打合せ記録簿を設置した。また管理者全員にカード型空気清浄機「イオニアカード」を配布した。

非接触体温計は人体に触れることなく体温が測定できるので、従業員・下請業者に対しての健康管理やウイルス感染防止に役立った。通常アルコール除菌タイプの重複使用は手荒れを起し使用を避けるようになるが、今回用意したクリーナーはノンアルコールタイプなので肌に優しく非常に使い易かった。注意喚起ポスターについては、政府やマスコミ媒体、インターネットなどウイルスに関する情報の更新に合わせ、最新の情報を取り入れて積極的な周知を心掛けた。来客対応は、マスク着用及び検温を徹底とし、出入りに打合せ記録簿を設置した。来客者には名前・所属・連絡先の記入を依頼し、万が一感染者が出た場合直ぐに来客者に連絡・対応できるようにした。

カード型空気清浄機「イオニアカード」はカードの周囲の空間にイオンが発生するもので、電源不要・メンテナンス不要・身につけるだけなので気軽にウイルス対策できるのがメリットである。



③バルコニーの設置及びグリーンカーテン・ミストの取付

ウイルス対策として、換気の良い環境の中で打合せを行うことを前提に、2階事務所横にバルコニーを設置した。バルコニーには大型のテーブルとベンチを設置したので、ほとんどの打合せはバルコニーで行うことができ、ソーシャルディスタンスを保った感染症対策が可能となった。グリーンカーテンとミストについては、当初は日除けとして熱中症予防のために取り付けたが、緑色が視界に入ることによってストレスを和らげる効果を感じられた。今回はアサガオとグリーンカーテンを日除けに利用したところ、効果は抜群であった。



④生花・野菜の植栽による緑化推進

間伐材を使用した花壇やプランターに生花や野菜を植栽することで、環境保全及びCO2削減を意識した緑化推進に取り組んだ。生花であるカンナ、アサガオのグリーンカーテンやヒマワリなど季節を感じる花を植栽した。たくさんの緑に囲まれたことでコロナ禍でのストレス緩和に繋がり、また無機質な現場事務所が周辺の環境に馴染むことでイメージアップが図られた。

また、感染症対策を万全とした上で、採れた野菜を使用した漬物作りを行い下請業者へ配布した。漬物には塩分が含まれるため熱中症対策にも繋がり、試食した下請業者からも好評であった。





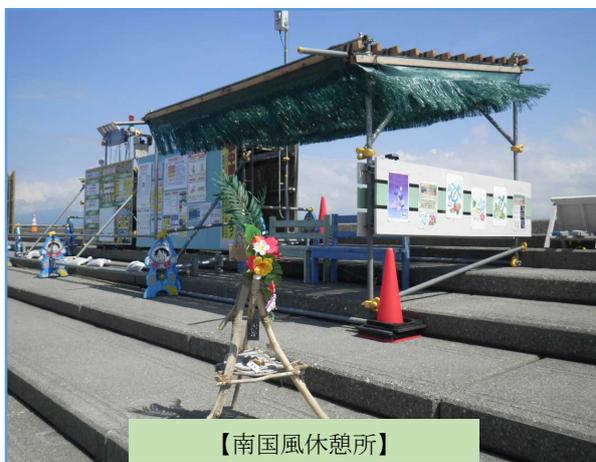
【下請業者への漬物の配布】

(2)地域とのコミュニケーション

①休憩所の設置

現場はキャンプ場が隣接し利用者で賑わう場所であり、コミュニケーションの場として気軽に利用してもらえるよう休憩所を設置した。

コロナウイルス対策として大きめの休憩所を設置することを念頭に、隣の人と密接しないよう2台のベンチを製作し設置したことで工事説明会の開催では3密になることなく実施することができた。休憩所には流木を使用したオブジェや案内看板も製作し、自然素材の日除けを取り付けたことで南国風の休憩所となった。日除けは工事説明会の際、熱中症予防に役立った。休憩所を設けたことによって、現場周辺で散歩される方の休憩スポットとなり多くの方が利用していた。この休憩所は知人等のSNSにあげてもらっており、「いいね」の評価を沢山頂いたという話も聞いた。



【南国風休憩所】



【休憩所看板】

【オブジェ】



【休憩所の利用風景】



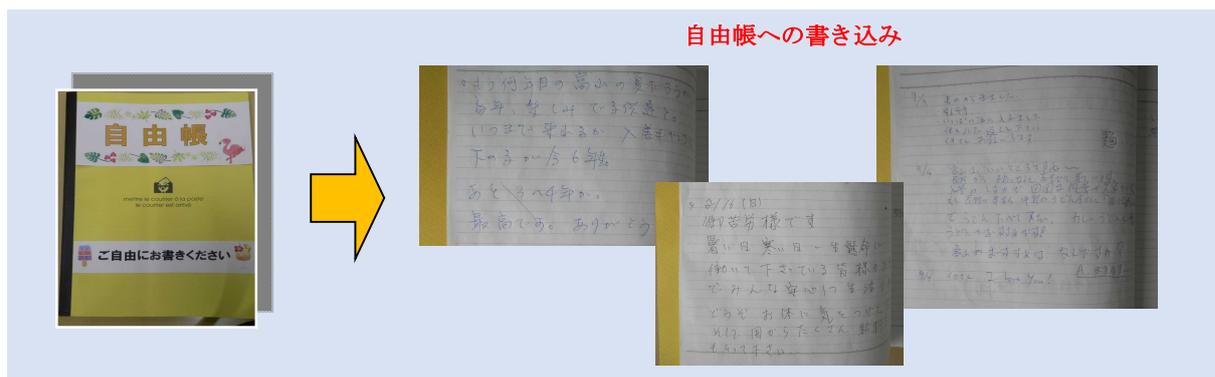
【工事説明会の開催】



【地域住民とのコミュニケーション】

②自由帳によるコミュニケーション

コミュニケーションの試みとして誰でも自由に書き込みのできる自由帳を置いたが、短期間にも関わらず沢山の方からの書き込みを頂いた。施工現場である園家地区へ毎年遊びに来られる方は地元の良さを伝えてくれたり、県外の方からは自身のお勧めの飲食店を紹介してくれていて、園家地区への愛着が感じられた。インターネットが発達している現在、顔の見えないやり取りが常態化しているが、今回のような昔ながらの手法はかえって新鮮に感じられその良さを再認識することができた。



③現場ホームページと動画 QR コードの作成

現場前の工事説明看板にマスク装着のマスコットを掲載してコロナウイルス感染予防を PR した。また、密接にならずに遠隔からでも情報を発信できるよう現場専用のホームページを作成し、誰でも気軽に閲覧可能とするため現場ホームページの QR コードを載せた。現場の説明や施工の進捗状況を掲載し、環境改善やウイルス感染対策の様子などはブログとして更新した。

また、休憩所側面の壁には、工事のながれと施工状況の動画を読み取れる QR コードを掲載した。地元の子供を集めた工事説明会の開催や、高校生や国交省のインターンシップに協力した際、これらを説明資料として活用し、動画を閲覧してもらった。現代、ほとんどの人がスマートフォンを所持しているので、特に若い世代がこの建設業界に興味を持ってくれると嬉しく思う。



【説明会等にて QR コードを読み込んでいる様子】

QRコード読み取りによる閲覧フロー

工事説明書看板



スマホ等で
読み取る



現場ホームページが閲覧できる



「工事のながれ」説明看板



スマホ等で
読み取る



作業風景動画が閲覧できる



4.結果と考察

今回は新型コロナウイルス対策を中心に安全対策を行ったが、環境保全としたCO2削減やストレス軽減効果が生まれたり熱中症対策のアイデアに繋がったりと色々な相乗効果があった。

現場環境改善で取り上げた緑化推進については、花や緑には「緊張を和らげる効果」「ストレス・抑うつ・疲労・混乱軽減効果」「活気が得られる効果」や体調を最適な状態にする「調整効果」があると医学的にも証明されている。こうした効能は、施工上の安全対策の取り組みとは別に「心身を健康に保つ」対策として有効であると感じる。建設業は他の業種に比べ重大な事故が起こる可能性があり、よりストレスが生じやすい環境である。花や緑を鑑賞することは心身共に良い影響を与えるので、少しずつでも取り入れてみると良いのではないかと。

休憩所の設置については地域とのコミュニケーションが円滑に行われ、このようなコミュニケーションを通じて現場を訪れる方々に離岸堤工事への理解を深めてもらえるよう目的があったが、私達施工者側も地元の良さや特性を知るきっかけとなった。

5.おわりに

工事毎に取り組んでいる創意工夫や地域貢献であるが、今年は稀に見る世界情勢であり、例年以上に「安全対策」に関しては神経を使った時期であった。しかし、だからこそ思い切った安全対策に取り組むことができ、新たな工夫やアイデアを創出することができた。2020年12月現在、新型コロナウイルス感染拡大は深刻化しており収束の気配が見えていない。今後の建設現場においても、このウイルスと共存していく方法を模索することになると思われる。施工上の安全対策は基より働き手の健康に対する安全管理や地域との連携によるコミュニケーション等に一層力を注ぎ、より適切な現場環境改善を行うことで建設業界全体の働きやすさや健全化を追求していく所存である。